

## 8月 外国人観光客の売上高・来店動向

平成 22 年 9 月 1 5 日

- 調査対象店舗 : 21 社 42 店舗 (外国人観光客誘致部会委員店)  
(今月より、調査対象店舗が増えております)
- 調査品目 : 主力商品である化粧品・食品等は、免税手続き対象外のため含まれません。

### 1.免税手続きベースの売上および対前年比

- ◆ 売上高総額 (42 店舗) …………… 15 億 6,884 万円余 (1 店舗平均 : 約 3,735 万円)
- ◆ 売上高前年比 (42 店舗) …………… 116.5% (店舗数調整後)

### 2.免税手続きベースの購買客数および対前年比

- ◆ 購買客数合計 (42 店舗) …………… 25,199 人 (1 店舗平均 : 600 人)
- ◆ 購買客数前年比 (42 店舗) …………… 109.0% (店舗数調整後)

### 3.免税手続き一人当たりの購買単価

- ◆ 一人当たりの購買単価 (42 店舗) …………… 62,258 円
- ◆ 一人当たりの購買単価前年比 (42 店舗) …………… 106.9% (店舗数調整後)

### 4.外国人観光客に人気のあった商品

第 1 位 婦人服飾雑貨 (婦人靴、アクセサリ、時計、サイフ、日傘、ハンカチ、ストッキング)

第 2 位 婦人服 (バーバリーブルーレーベル、アニエス b、ワンピース、カットソー、ツモリチサト)

第 3 位 化粧品 (資生堂、SKII、ファンケル)

第 4 位 紳士服・雑貨 (コーナーコムデギャルソン、ワイシャツ、ラコステ、ベルト、財布)

第 5 位 子供服・雑貨 (ミキハウス、サンリオ雑貨、文房具)

- ◆ バーバリーブルーレーベルが前年並みとなる一方、ルイ・ヴィトンやシャネル、グッチなどの特選ブランドが2桁以上の伸びを示す。またコムデギャルソン、キタムラ等の日本の代表的なデザイナーズ・ブランドが上位に来ている。(札幌、名古屋)  
また、時計、毛皮、メガネ(エアチタニウム)、ベッ甲等、通常月ではほとんど動かない商品の購入が目立った。(札幌)
- ◆ 夏休みを利用し、来日されているためか子供服が上位を占めた。他方で、エルメス等のブランド購入も目立っていた。(東京、名古屋、大阪、福岡)
- ◆ 化粧品は、メーキャップをしながらカウンセリングすると、UV効果や美白効果の高いものをより求められる傾向がある。他方、免税できないことを伝えると、空港で買うので購入しないというお客様も多く、販売機会の損失も感じた。(東京、大阪)
- ◆ 婦人服や紳士服などのアパレル分野は、気温の高さで秋物プロパーが全く動かなかった。(東京、名古屋)
- ◆ サンリオ、伊東屋等のお土産購入が多かったように思う。お土産の単価を落としているように感じられた。(東京)

## 5.免税手続きカウンターの来店国別順位

第1位： 中国本土    第2位： 香港    第3位： 台湾    第4位： 韓国

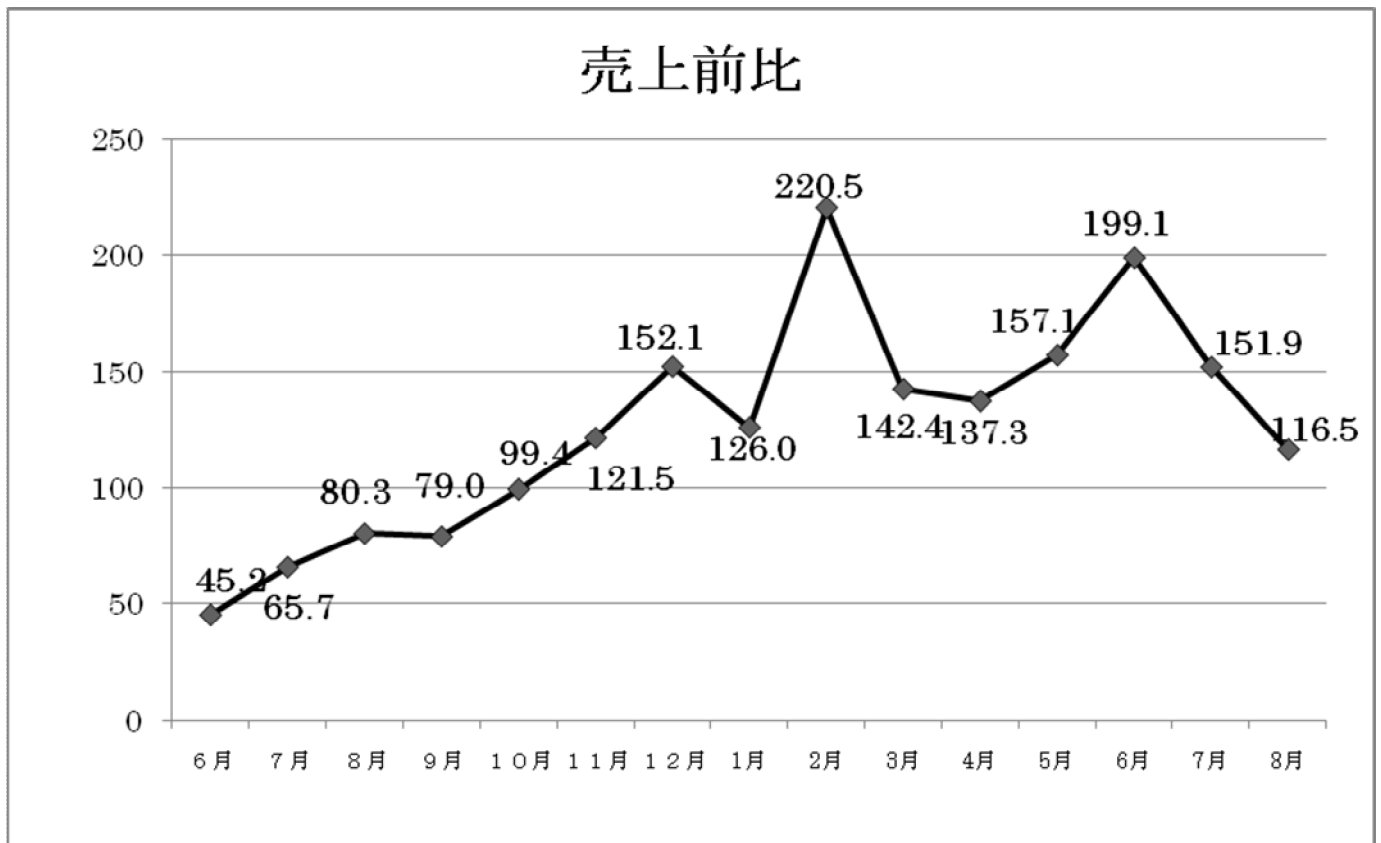
第5位： シンガポール    第6位： オーストラリア    第7位： アメリカ

## 6. 今月の概況他

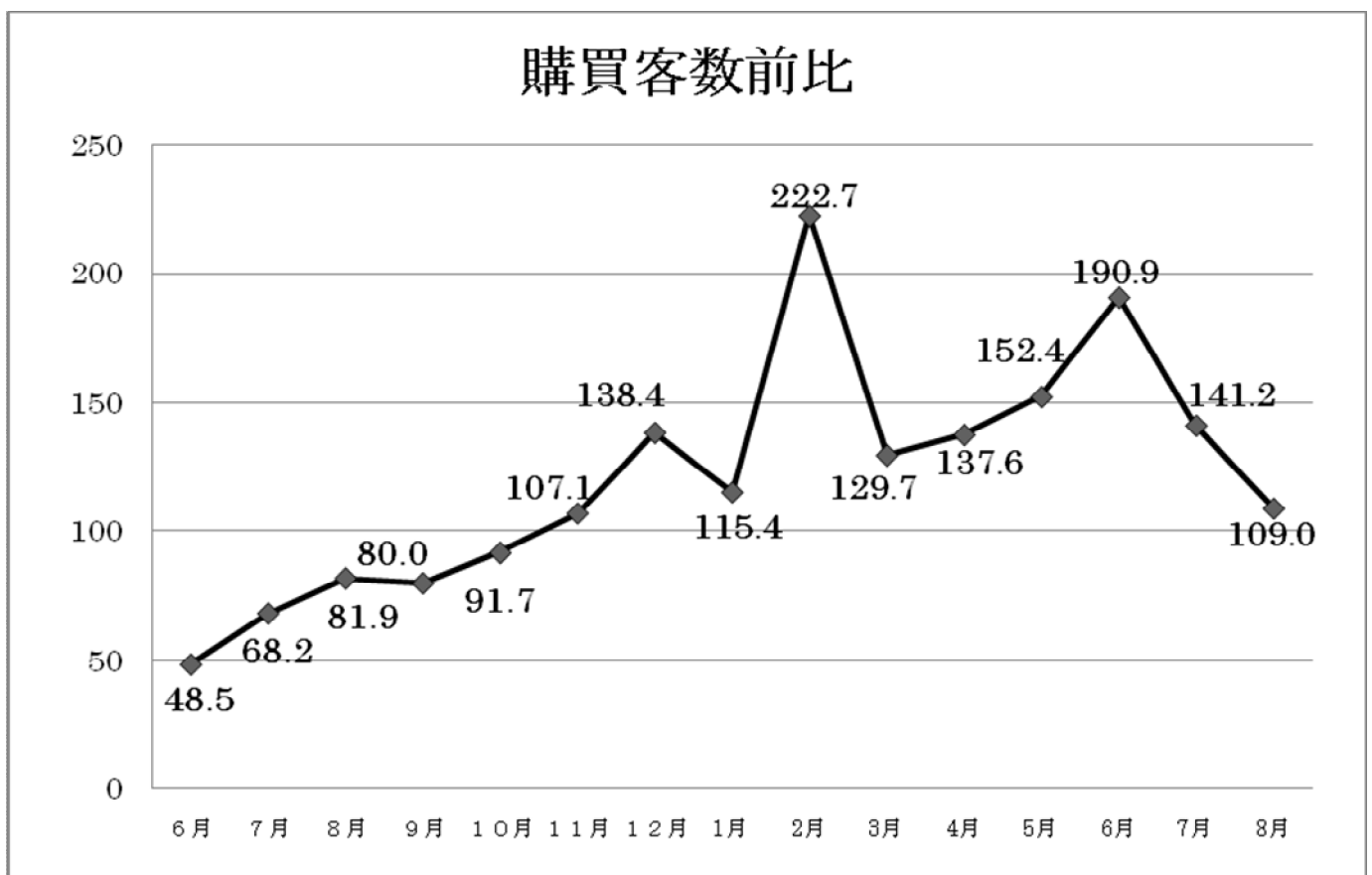
- ◆ 売上、客数とも昨年比を上回り、42店舗中28店舗がプラスに転じた。
- ◆ 中国を含め、アジア隣国からの急伸が下支えとなっており、中国本土からのお客様には円高の影響がないようにも感じたが、欧米地域の実績がやや落ちていると感じる。(札幌、新宿、渋谷、大阪)
- ◆ もともと新宿地区には外国人観光客が多かったが、中国本土のお客様が銀座に集中しているため、やや来店数が減ったようにみえるかもしれない。(新宿)  
※新宿地区では、1位：香港、2位：台湾、3位：中国、4位：韓国という順位の傾向があるため、銀座の様子とは違った感じも見受けられる。
- ◆ シンガポールからのお客様が半減し、香港からのお客様も伸び悩んだ。(札幌、渋谷)
- ◆ クルーズ船の寄港実績が昨年の10回から既に13回の実績となったが、ラグジュアリーブランドの売上が前年を下回った。客層や志向性の変化が感じられる。(福岡)

以 上

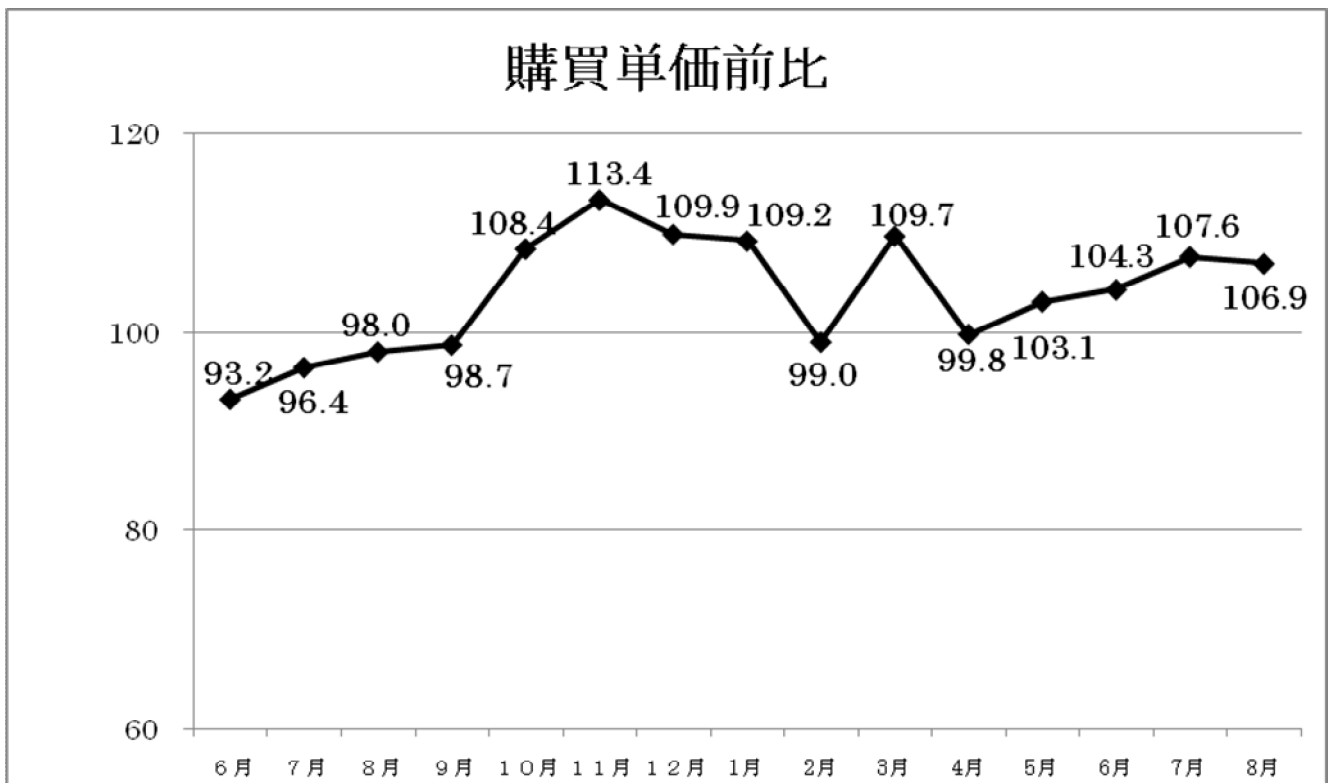
売上前年比 (%)



購買客数前年比 (%)



購買単価前年比 (%)



【お問合せ先】

日本百貨店協会・外国人観光客誘致事業担当（無断転載を禁じます）

TEL：03-3272-1666